

ふるさと館などにイルミネーション登場

道の駅松浦海のふるさと館で12月13日、イルミネーションの点灯式が行われました。

松浦市観光協会(小松英史会長)が同施設の景観向上と集客、地域活性化などを目的に企画したもの。この日は県、市、観光協会役員など約20人が参加し、広場の植栽や遊歩道脇に設置した約1万4千個のイルミネーションに点灯しました。イルミネーションは午後6時から12時まで1年中点灯される予定です。

また、志佐町の中央公園では志佐商工振興会(松浦孝明会長)と松浦住まいづくり研究会(古本修司会長)が協力し、約1万5千個のイルミネーションを設置。1月17日まで市民の目を楽しませました。



西九州自動車道伊万里松浦道路着工

西九州自動車道伊万里松浦道路の本県側の着工式が12月14日、今福小学校体育館で行われました。

この道路は、福岡市から武雄市に至る約150^{キロ}の西九州自動車道の一部を構成する路線で、伊万里市東山代町と本市志佐町を結ぶ自動車専用道路です。共用開始すれば伊万里市まで約10分となり、現行に比べ約40分の時間短縮効果が見込まれます。

この日は県、市、国土交通省、地域住民など約180人が出席。今福小児童、金子原二郎知事、友広市長、中塚市議会議長などがくわ入れを行い、工事の安全と早期完成を祈願しました。



中学生が野球で熱戦

第1回ナガセケンコーカップまつら地域中学校軟式野球交歓会(まつら地域中学校軟式野球交歓会主催)が9月14日、23日、12月13日、14日の4日間、市民運動公園など4会場で開催されました。

同大会は、チーム同士の交流を図り、互いの親ばくと競技力の向上を目指して今年初めて開催されたもので、市内や近隣市町から16チームが参加。4パートに分かれて予選リーグ、決勝トーナメントを行い、熱戦を繰り広げました。

結果は次の通りです(市内のみ)。

【2位パート】①今福中学校

【3位パート】②福島中学校

まちの話題



ソフトバレーで親ばく

第21回勤労者の祭典(松浦市商工業労政推進協議会主催)が12月13日、文化会館で開催されました。

企業優良従業員表彰では、7事業所から選ばれた7人が表彰を受けました。

また、同協議会の会員事業所相互の交流を目的に行われた職場対抗ソフトバレーボール大会には、市内事業所から10チーム、約100人が参加。元気いっぱいのプレーで親ばくを深めました。結果は次の通りです。

①住商エアバッグA ②松浦衛生組合 ③中興化成B

シルバー人材センターが門松を寄贈

松浦市シルバー人材センター（石本利明理事長）が12月25日、市に門松を寄贈しました。

同センターでは、年末になると会員の手作りによる門松の製作・販売を実施。この門松作りは、同センター設立の平成2年度から独自事業として実施しているもので、市内の竹林などから材料を調達しているため安価で販売することができます。

この日は、市民が訪れる市役所、きらきら21、文化会館の玄関に、門松を設置し、寄贈しました。この門松は1月6日まで飾られ、市民の目を楽しませました。



松浦商工会議所が飲酒運転追放宣言

松浦商工会議所（高橋博之会頭）が12月18日、松浦警察署に飲酒運転追放宣言書を提出しました。

高橋会頭は「改めて飲酒運転追放をPRしようと計画しました。悪質・危険な飲酒運転を追放し、安全で安心して暮らせる交通社会の確立のため、飲んだら運転しない、運転させないなどを実践します」と話し、岩田廣文署長は「会議所には市内の多くの飲食店が入っている所以効果は大きい。警察としても飲酒ひき逃げが逃げ得にならないよう取締りを徹底していきます」と話しました。



鷹島肥前大橋（仮称）開通を前に講演

道の駅松浦海のふるさと館の上田知明^{ともあき}支配人が12月23日、今福公民館で講演会を行いました。

鷹島肥前大橋（仮称）開通に先がけて行われたこの会には、鷹島町の観光関係者など約70人が参加。会の中で上田支配人は「鷹島肥前大橋開通は大きなチャンス。交流人口を増やすには早くから十分な準備を行い、リピーター客が来るような受け入れ体制・PRが重要です。現状では準備が遅れているので早急な体制作りが必要です」と話しました。



昆虫の世界を子どもたちへ

世界的に活躍している生物生態写真家栗林慧^{さとし}さんが12月22日、市立星鹿公民館に図書^{たか}を寄贈し、久保川隆司館長に手渡しました。

寄贈された図書は、子どもから大人まで楽しめる昆虫写真集など12冊。栗林さんは「子どもたちに見てもらい、一人でも多くの子どもが自然や生き物に興味を持ち、身近な自然に目を向けるきっかけになればうれしいですね」と話していました。



オルゴールの会が募金活動

音楽愛好家グループ「オルゴールの会」（山口礼子代表世話人）が12月23日、道の駅松浦海のふるさと館でユニセフ募金活動に取り組みました。

同会は、毎年年末に募金活動を行っており、今年で10回目。今年のハンド・イン・ハンドユニセフ募金は「守りたい子どもたちの命、アフリカの未来」をテーマに行われました。

この日は、会員やその家族10人が約1時間募金を呼びかけ、集まった24,238円をユニセフの活動支援のために全額送金しました。

